



高水地協ニュース

連 合 長 野
高水地域協議会

○ 発行責任者 荻原 公和

○ 編集責任者 岩本 淳一

〒383-0025 中野市三好町 1-1-19 Tel.0269-23-0505 Fax.0269-38-0575

第4回定期総会〔特集号〕

連合長野の運動方針のもと、STOP・THE・格差社会！
すべての働く者の連帯で「安心社会」を切り拓こう！



総会議長の小林・植木両代議員

11月21日(土)、中野市「アップルシティーなかの」において構成37単組・70人(委任状含む)の代議員が出席し、来賓には中山連合長野会長、須坂市産業振興部の加藤部長、長野県北信労政事務所の白鳥所長、篠原孝衆議院議員、宮坂・岩田両須坂市議会議員、須高・北信両地区労組会議議長、労働金庫須坂・中野両支店長、全労済北部支所長(代理)を迎え、連合長野高水地域協議会第4回定期総会が開催されました。今号では、第4回定期総会〔特集号〕として記事を掲載します。

小林議長挨拶

第4回定期総会にご参集の皆さん大変ご苦勞様です。

さて、国会は今秋に入って大変なことが起きた。多くの国民や見識者が「憲法違反」だと訴える安保法案(戦争法)を数の力で成立させたのだ。こんな馬鹿なことは許せない。次世代の子供や孫にいよいよ徴兵制度が導入されるのではないかと危惧するし、とりわけ東京オリンピックを控えて思うのは、日本の大都市や繁華街で悲惨なテロ行為がいつ起こっても不思議ではない。戦後70年、日本政府は「武器は持たない」「武力で武力を抑止する時代は終わった」との戦争の反省に立ち、憲法第9条を中心とする日本国憲法に変えてきたにも関わらず、安倍政権は戦前に逆戻りするような横暴な姿勢である。我々は来年の参議院選挙を皮切りとした投票行動で、何としてもこの悪政を「国民主権」の政治へと変えていかなければならない。また、労働法制についてももしかりである。国民の総意を軽視し、大企業が海外で如何に利益を増やしていくか、米国のためには日本の国民はどうなっても良いと

しか思えない。政権与党は、そのような政治に舵を切っていることは事実であり、まさに政治を変えるのは我々労働者が先頭に立ち地域の皆さんにも分かり易く訴えながら、「悪政を変える闘い」を進めていく必要がある。我々は

こうした大きな課題を背負いながら、これからも須坂市から飯山市・栄村までのエリアの中でしっかりと地域運動を展開していかなければならない。

一方、今の高水地協や構成単組の状況は、私の議長経験の中でとりわけ須高・北信が統合した三年間、色々な場面で連合の理念である「信頼される労働組合をめざす」「地域に根差した顔の見える労働運動を創り上げる」ことが、果たしてめざしてきたのかどうか非常に疑問である。ハッキリ言って、地協に統合する以前、市町村では多少の違いはあるものの、須坂市では関係者の努力により、特に協調融資制度(労金融資に対して自治体の利子補給あり)という、



労働者・勤労者にとっては非常に有り難い制度ができている。しかし、北信では各自治体と連携している姿は全く見えない。北信地協が発足して20年経つが、自治体との連携や、中高・飯水岳北地区評の時代から、果たして地域との連携ができていたのか。地協・構成単組が、いくら声高らかに「政治を変えよう」「地域住民に連合運動を理解してもらおう」と唱えたところで、前進することはまさに不可能な状況であろう。

北信地連が運動体になっていない原因は、次期役員選定に当たって単組の順番により順次決めてきたことにある。ようやく本年度の終盤に入り、地連代表者会議の議論を経て、今後の輪番制を廃止する目処は立ったが、まだまだ出身単組のサポート体制は希薄であり、役員個人の力量のみで活動・行動しているのが実態だ。役員を受持つ単組が「地協役員は個人的な任務である」と考えているとしたら、それは大きな間違い。役員を担うのは単組を代表する立場であるから、当該単組全体で「地協役員を担う」との責任を持ちながら、とりわけ地協五役を受持つ単組は地協活動をやり易いようにしていかなければならない。組織が関与しない個人の活動・行動には必ず限界がある訳だから、単組が役員をキチンとサポートし、連合運動を内部機関（執行委員会や組合集会など）へ展開していくこと、それこそが地域運動の充実・発展に繋げる基本だ。

各単組の力量が、ここ十数年でかなり落ちていていると感じる。だからこそ、単組役員は組合員としっかりとスクラムを組んで、力量をドンドン上げていくことが必要。高水地協は新年度も、引き続き地協機関紙発行やリーダー研修会実施などの活動方針を掲げているので、こうした活動をやり遂げながら、構成単組の協力・努力で充実した地域の労働運動が展開できるよう

中山会長挨拶

日頃、連合長野は高水地協の皆様のお陰で、諸活動ができていることに感謝したい。

まず申し上げたいのは、9月11日に成立した「改正労働者派遣法」の改悪である。派遣で3年間勤め上げても正社員に替われない。本来は常用代替で、正社員が非正規になることはほとんどなかったが、今後は「正社員が非正規になることは十分あり得る」「ドンドンとそう云う流れに行く」「それが効率だ」と、非常に危機を感じている。また、9月中旬に成立した安保関連法制は憲法を飛び越えて、集団的自衛権はOKになった。フランスで起きたテロが「今度は日本が標的」になり得るし、IS攻撃に米軍を出す際はオバマ大統領が安倍総理に「日本はきてくれるよね」と言えば、国会で審議するとしても政権与党は圧倒的に議席が多いから、必ず自衛隊を派遣することになる。その結果、憎しみが憎しみを呼ぶだけであり、我々は「想定外のことがいつ起きるか分からない」ことを、常に考えて行動していかなければいけない。要は「国民が団結して立ち上がらないと、本当に大変なことになっ

に努めていきたい。

日常的な課題として、ユニオンショップ協定ができていない民間の単組がある。そこは一刻も早くユニオンショップ制が締結できるように進めてほしいし、あるいは「ホッペタ回し」で一年交替の役員構成で運営・活動している自治労の単組がある。運動論・運営面から、少なくとも「2期4年は役員に就く」くらいの改革が必要ではないか。長期体制で運営・活動している単組を手本とし、長期体制を念頭とした役員体制の再構築に格段のご努力をお願いしたい。そのうえで構成単組との交流を持ちながら、運動を展開していくことがとても大事だと考える。それぞれ責任ある立場の皆さんがしっかりと自分の組織を固めながら、地域の労働運動を展開していくことが極めて必要なことである。

須高・北信の統合で高水地協が誕生し3年が経過した。現在須坂市にも我々の地連事務所があり、本所は中野市にある。今後は予算の関係で縮小される状況はあろうかと思うが、地域の労働運動はキメ細かな活動が求められているので、是非この体制を維持していきたいと考えている。

最後に、私は須高で10年間、高水で3年間に亘り議長を務めた。この間、実名を出して「もっとシッカリやれよ」と気合をかけたことなど、色々と苦言を申し上げてきた。それは私からのメッセージだと思ってほしいし、労働組合は個人のものでもなく、そこに働く組合員のものであるからこそ、「組合員の幸せ追及」が労働組合の真価を示せるものである。地協・単組の役員は、組合活動と仕事との両立は大変でしょうが、「組合員の幸せ追及」のために、皆さんのなお一層のご奮闘をお願いしたい。

ていく」ということである。自民党は国民を無視して、ドンドンとやりたいことをやっていくだろう。

また、ホワイトカラーイグゼンプションに関して申し上げますと、2013年の検察庁報告では20代・30代の若い層で、千人以上が労働問題（過労など）で亡くなっている。この状況でホワイトカラーイグゼンプションが入ってきたらどうなるか。これは、年収が1,075万円を超えたら残業代は出さなくても良いということ。更に経団連は「上限を400万円まで下げても良いのでは」と主張し、これも法律がドンドンとその方向へ進むと思わざるを得ない。であるから、来年7月の参議院選挙で絶対にその流れを変えなければいけない。政権交代の選挙ではないが、ここはまさに「団結ガンバロウ」なのだ。子・孫の不安定な雇用形態などによる生活の危機・崩壊を踏まえて、家族を含めた団結ガンバロウをしていかな



いと大変なことになってしまう。いま年収200万円以下の人達が1,000万人以上にも上るし、子供たちの貧困実態として30人中5人は「朝食を摂れない」「修学旅行に行けない」など、現実にごうした子供たちがいるのである。

この状況下で、日本政府は「強い日本・強い経済、世界で一番ビジネスのしやすい国にする」と言い、安倍総理はトリクルダウン（富裕層が経済的に豊かになることで、最終的には貧困層も豊かになり、全体に富が行き渡るという理論）で企業さえ良くなればいいのだと言う。本当に景気回復の実感が伴っているか、私にはその実感はない。まさに多くの労働者・生活者は不安なのだ。いま労働金庫の預貸率から見えるのは、「預金はするがローンはできない」、ではなぜ借りられないのか、「将来が不安だからお金は貯めておきたい」ということになる。そういう現状の“流れ”を、我々の行動で変えていかなければならない。

地協から「連合長野は何をやっているんだ」と言われる。これは私自身が肝に銘じて「団結ガンバロウをどうやっていくか」であると捉えている。とにかく実感し共感していく、共感して実感していく仲間を増やそうということ。こういう活動を非正規の皆さんに広げていきたい。今、民間の非正規の皆さんは4割、働いている人達の5割近くが非正規になってきている。この人達に対して上から目線ではなく、「一緒に賃上げて労働条件を上げていく」ことを強くアピールし、この春闘を含めまさに団結していこうということだ。こういった組織拡大の取り組みを、連合長野と全地協

経過報告・議案審議

●経過報告

2015年度の会務・諸行事などの経過について、小林東一事務局次長より報告しました。

2015春季生活闘争時における各種行事（闘争宣言集会・学習会、春闘総決起集会、ユニオンスクールの開催など）や列島クリーンキャンペーン、平和集会について説明しました。とりわけ、地方統一選挙における地協の取り組みについても詳しく報告し、当選できなかった推薦候補者はいるものの、推薦候補者の積極的な支援・協力を行い、当選を果たした意義・評価は高い旨を述べました。課題は、北信地連で開催検討した自治体懇談会ができなかったこと。引き続き、次年度も誠意検討し早い時期に開催していきたいと付け加えました。

その後、会計決算報告と会計監査報告を行い、代議員からの発言はなく、満場一致で承認されました。

●議 事

第1号議案「2016年度活動方針（案）」については、荒井裕清事務局次長より、連合長野の運動方針の概念図と地協の活動イメージ・チェックリストを示したうえで、前年度を踏襲した活動方針を提案しました。

第2号議案「2016年度予算（案）」についても、荒

が一体となって推進していかなければならない。

中央労福協からの報告では、いま奨学金を借りている人達が返済できないという事態が起こっている。原因は、「卒業しても正規の就職先がないし、非正規で働くと賃金が不安定であり、加えて賃金が低いから返せない」ということである。親も非正規で働いているので返せない。したがって、「給付型の奨学金に変えてくれ」「大学の授業料を下げてくれ」という取り組みを展開するため、是非とも連合の署名活動にご協力いただきたい。

先日、コンビニで働いている大学生から電話があり、「仕事のノルマを確実に消化しないと、賃金が引かれてしまい大変に困っている。例えば、自分でクリスマスケーキを何十個買ってノルマを消化しなさいと言われた」という話である。こんなデタラメな話ってない。あるいは、大学の先生からの相談は「学生が学校にこない」「アルバイトに仕事のシフトが組まれているから、深夜でも学校に出てこれない学生もいる」という話である。ブラック企業・ブラックバイト（学生が学生らしい生活を送れないアルバイトのこと。シフトを一方向的に決められることにより授業や課外活動に参加できなくなってしまう働き方）がドンドン広がっている。だから、団結しなければいけない。私たちが一緒になって改善していかなければいけない。したがって、今こそ私たちが団結して働く者の力をキチッと示していく時期であると思っており、皆さんもそうした行動に参加していただくようお願いしたい。

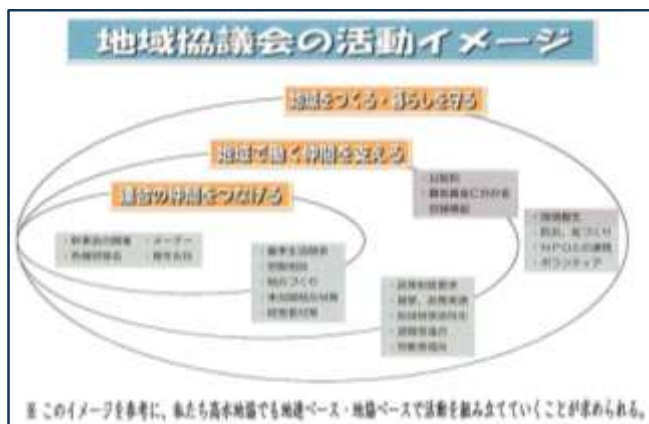


新議長より感謝状を受ける小林君男さん

井裕清事務局次長より提案し、代議員からの発言はなく満場一致で可決承認しました。

第3号議案「役員選出（案）」については、関和之選挙管理委員長より役員候補者の受付（告示）結果と役員推薦委員会へ答申した旨の経過報告を行い、その後に推薦委員会より提出された立候補者名簿を読み上げて提案し、代議員からの発言はなく満場一致で可決承認しました。

第4号議案「表彰」は、岩本淳一副議長より提案、退任する小林君男議長へ慰労金と感謝状の授与を満場一致で承認し、表彰式を執り行いました。



地域協議会活動基盤のチェックリスト

- ☐ 地域内の体制（運営基盤）を固めているか？
- ☐ 地域内の行政との連携はできているのか？
- ☐ 地域内の経営団体（商工会議所・農工商など）との連携はできているか？
- ☐ 地域内のネットワーク（4団体・NPO・社協など）はできているか？
- ☐ 地域内で、連合の顔のアピールができているか？
 - ◎先頭行動 ◎地域行事への参加 ◎市民が参加できるイベントの開催・・・
- ☐ 地域内における社会活動の重要性を、地域内の産別・単組は理解しているか？

議案書に提示した「地域協議会の活動イメージ図」「地域協議会活動基盤のチェックリスト」

議長就任に当たって（荻原公和）



私たちの労働運動は、自分たちの労働条件向上はもちろん、労金・全労済運動を中心とした労福協活動に加えて、三つ目の大きな柱として政治活動があります。私はこの10月まで、須高地区労組会議の事務局長をやっており、その定期大会の中で出席代議員から「なぜ政治活動をやるのか」と云う質問がありました。やはり、私たちが政

治活動にシッカリと取り組まないと、9月の参議院における戦争法の強行採決というような結果を許してしまうことになります。

来年の7月には、第24回参議院議員選挙が施行されます。そこでは、連合長野が推薦する「私たちの声を反映してくれる候補者」の当選を果たしていかなければなりません。そのためにも、日頃からシッカリと高水地域において活動していきたいと思いますので、皆さんには是非ご支援・ご協力をお願い致します。

2016年度役員名簿

役職名	氏名	地連	産別／出身単組
議長	荻原 公和	須高	私鉄／長野電鉄
議長代行	戸島 裕司	北信	自治／中野市職員
副議長	岩本 淳一	須高	電機／鈴木
副議長	湯本 秀樹	須高	農団／須高
副議長	中村 光良	北信	電力／中部電力飯山
副議長	本間 直幸	北信	電機／しなの富士通
事務局長	丸山 淳市	北信	J P／日本郵政G北信
事務局次長	富澤 一明	須高	自治／須坂市職員
事務局次長	和平 幸三	-	連合長野派遣（専従）
幹事	北村 貴志	須高	自治／須坂市職員
幹事	関 佳代子	須高	自治／須坂市社協職員
幹事	柴本 幸子	須高	自治／須坂病院
幹事	榎沢 寿之	須高	電機／ニッソー
幹事	内山慎太郎	須高	電機／鈴木
幹事	北島 秀樹	須高	私鉄／長野電鉄

役職名	氏名	地連	産別／出身単組
幹事	島田 誠	須高	農団／須高
幹事	小山 武志	須高	フード／明治産業
幹事	関 和之	須高	県教／上高井
幹事	中野 建一	北信	自治／県職員北信
幹事	久保田珠希	北信	自治／飯山市職員
幹事	大谷 純人	北信	自治／木島平村職員
幹事	黒澤 卓也	北信	電機／新光電気高丘
幹事	池田 文武	北信	電機／計電機／ワセミコンダクタ
幹事	高橋 一彦	北信	農団／中野市
幹事	滝澤 秀也	北信	農団／北信州みゆき
幹事	田中 国晴	北信	U A／全コシナ
会計監査	谷口 直幸	-	林野／全国林野北信
会計監査	米沢 考司	-	電機／日通エレクトロニクス
会計監査	宮崎 透	-	労金／中野

篠原 孝 衆議院議員挨拶（要旨）

昨年末の衆議院選挙には、大変なご支援とご協力を得て当選することができ、感謝を申し上げたい。民主党は野党第一党でありながら、皆さんのご期待に応えられず大変申し訳ないが、何故そうだったか。民主主義は数。議会は「数の力」であるということ。大半の法案は、多数派の与党が数の力で通してしまう。これを覆すには、国政選挙で民主党が多数の議席を取らなければ不可能。それを踏まえて、野党が「反安倍」「反政権」に結集していかなければならぬ、その中心になるのは民主党である。

来年は参議院選挙。長野選挙区は4人から2人に

減り、このうちの1人を選ぶ熾烈な選挙戦となることは明らか。参議院選挙は政権交代に直接繋がらないが2007年の参議院選挙で民主党は圧勝し、第一次安倍政権は突然退陣した。やればできる。だが、2013年には自民党が圧勝。来年の選挙でまたもや自民圧勝となれば、日本は完璧におかしな方向へ行く。とにかく、これを阻止しなければ大変なことになる。



以上